

平成17年6月23日
内閣府（防災担当）

中央防災会議
「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」（第10回）
議事概要について

1. 専門調査会の概要

日時：平成17年6月22日（水）15:00～17:00
場所：全国都市会館 3階 「第一会議室」
出席者：溝上座長、阿部、新谷、伊藤、今村、入倉、笠原、杉山、長谷川の各専門委員、
武田内閣府官房審議官他

2. 議事概要

事務局より日本海溝・千島海溝周辺で発生する大規模な地震による強震動分布及び海岸における津波高さ、今後防災対策の検討対象とすべき地震像について説明を行った後、各委員にご議論いただいた。委員からの意見等は以下のとおり。

津波の高さや到達時間に加えて、津波高さの時間変化を示すのは、例えば、海水位に変化が現れるのを待ってから逃げるのでは遅すぎる場合を説明することができるなど、非常に重要である。他のいくつかの地点についても、計算結果を示すべきである。

津波による被害を検討するに際し、水深が浅くても流速が大きければ被害が発生することを考慮してはどうか。

津波の被害想定において、都市部が被災した場合の被害像を示すことは重要である。

津波の被害想定をとりまとめる際には、各被災状況に対応した具体的な事例もあわせて記してはどうか。

例えば2 m程度の津波が接近してくるときには、蒸気機関車の音がするという。このような具体的な現象を周知することも検討してはどうか。

「特に切迫性を有している地震」に挙げている地震の性格が理解しやすい表現となるよう検討するべきである。

<連絡・問い合わせ先>

内閣府 地震・火山対策担当参事官補佐 尾崎 友亮
同主査付 檜山 洋平

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-5199